

お金をいろいろ 比べてみたら…

日本で最初の貨幣は何？

+2000

「日本で最初の貨幣は何か」。古墳時代後期に渡来銭の使用が始まったという説はありますが、多くの方は「和同開珎」と答えるのではないのでしょうか。「和同開珎」は、唐（中国）の先進的な文化や制度を積極的に取り入れようとしていた律令政府が708年（和銅元年）に、唐の「開元通宝」をモデルに初めて公

的に鑄造・発行したとされる銭貨です。

「和同開珎」は畿内において財物の交換手段として利用されていましたが、それ以外の地域では、米や布帛（織物）などのモノによる取り引きが大勢を占めていました。律令政府は「和同開珎」を広く使用させるため、田畑の売買などに銭貨の使用を強制したり、多くの銭貨を蓄積した者に位階を与えるなどの流通促進策を講じました。しかし、各地の豪族や高級官僚が「富貴の象徴」ないしは「富の貯蔵手段」として利用するにとどまり、広く一般に流通することはなかったと言われています。

なお、「和同開珎」の読み方は、正式な記録がなく「珎」を「珍」の異字体として「ちん」とする説と、「寶」の略字体として「ほう」とする説があります。



和同開珎の銀銭（左）と銅銭（右）

コラム

富本銭ふほんせんって何ですか？

ところで、皆さんは「富本銭」をご存知でしょうか。「富本銭」は、奈良文化財研究所の発掘調査によって飛鳥池遺跡（奈良県）から大量に出土し、注目を集めています。飛鳥池遺跡から「富本銭」と一緒に出土した土器や木簡などを調査した結果、「富本銭」は7世紀後半、和同開珎の公鑄以前に鑄造されたことが判明しました。しかし、「富本銭」はまだ出土例が少なく、貨幣としてどのように使用されたかといった点など解明されていないことが多く、今後の調査・研究が期待されています。



富本銭のレプリカ